

設立20周年記念誌

# ハイキング 20年の歩み



2013/12/15

2016年1月

神奈川健生ハイキングの会



## 目 次

表紙絵 「秋の鬼怒川渓谷」臼井 太一作

執筆者 ページ

### ご祝辞

発刊の挨拶

神奈川健生 会長

大島 稲造 P1

健生ハイキングの会 20年の歩み

健生ハイキングの会 代表幹事

井上 精司 P1

「健生ハイキングの会」ホームページを開設して

井上 精司 P2

会員プロフィール 52名 全会員

伴 敏郎 P3

P4~29

### 思い出のハイキング (P30~47)

記憶に残る“田沢湖高原”

鈴木 昇生 P30

裏磐梯高原（夏季合宿）

木村 和男 P31

日光白根山

佐々木 貞子 P32

室堂・立山（雄山）・富山

東 晋 P33

10年目の立山（雄山）

井上 あき P34

室堂・立山（雄山）

瀬川 理維子 P35

四度目の白馬岳

伴 敏郎 P36

白馬・五竜遠見尾根の思い出

大上 敬枝 P37

塔ノ岳登頂記

関根 義永 P38

二子山（三浦半島）の雪

佐々木 悅子 P39

初めてのハイキングに参加して（金時山）

山崎 正澄 P40

山を愛して（南高尾山稜）

時松 孝子 P41

池ノ平～笠ノ登山～水ノ塔山

杉野 實 P42

北岳登山で想い出すこと

貫山 道子 P43

鼻曲山（群馬・長野）山行記

関根 義永 P44

二セコアンヌプリ初登山

佐々木 和彰 P45

木曽御嶽山

赤間 廣 P46

50年振りの白馬岳

井上 精司 P47

### カラー写真 コーナー (P48~59)

①集合写真(P48~51)、②花々(P52~53)、③風景(P54~55)、④スナップ(P56~59)

### 自由投稿 (P60~67)

登山と私

目島 公男 P60

山を登って、60年

井上 精司 P61

ラグビーに魅せられて

山下 陽久 P62

女房 元気で留守がいい！

木村 和男 P63

私の高齢化対策10年を振り返って

臼井 太七 P64

島国の日本をもう一度考え直そう

臼井 太七 P65

退屈しのぎの「高齢社会・考」

河谷 俊也 P66

会員プロフィールと想い出のハイキング「鷹取山」

齋藤 修一 P67

### 幹事会・研修会など (P68~90)

ハイキングの会・研修会の実施

P68~69

幹事会の紹介

P70

ハイキングの会の活動メモ（1～200回）

P71~90

### 資料 (P91~97)

ハイキング会・活動推移

P91

幹事体制の推移

P92

ハイキング通算参加回数

P93

通算参加賞（例）

P94

会員数と参加者数の推移

P95

会員名簿

P96

会則

P97

編集後記

表紙（裏）

## 50年振りの白馬岳

井上 精司

2年前の平成25年9月13日(木)～16日(日)(3泊4日)，古い職場の山仲間5人で白馬岳に登って来た。もう、皆、50年以上の古い仲間だ。

今回は、新宿から特急・「あずさ」で「白馬」迄行き、ケーブル利用で梅池ヒュッテに泊まる。翌日、天狗原から白馬乗鞍、白馬大池経由で、小蓮華山から白馬山頂に着き、白馬山荘に泊まり翌日、白馬大池に戻り、蓮華温泉に泊まった。



(白馬大池)

初めて、白馬岳に登ったのは、独身の頃で、約50年振りだった。コースは、白馬尻から大雪渓を登り、翌日、杓子、白馬鑓、不帰岳を越え、唐松小屋に泊まり、八方尾根を下った。

この7月、後期高齢者となった年齢で、予定どおり、白馬岳まで行きつけるか、心配はあった。2日の予定では、白馬山荘まで、歩行時間は、7時間余で、休憩も入れて、9時間の歩行となったが、頑張って、到達することが出来、この年になんでも歩けたことが嬉しかった。

3000mには少し足りないが、流石、北アルプスの名峰、丹沢と違う山容、谷間には、残雪がまだ残り、初秋を告げる真っ赤なナナカマドの実が見事だった。

今回は、日程の後半に、予想外の台風18号が接近する天気予報となった。下山の日、台風の影響は避けられないことは、予測された。最悪の場合は、白馬登頂を諦め、蓮華温泉へとも思ったが、幸いか?白馬山荘に着いた日は、穏やかで、快晴だった。雨が降り出したのは、白馬下山の日であったが、雨脚もそれほどでなく、最終宿、日本秘湯の湯・蓮華温泉に着いてほったした。その日の夕方からは、本格的な雨となり、バケツをひっくりかえしたような降り方に変わった。予定を達成したことも加わり、山の出湯に浸り、消灯まで仲間と話しが弾んだ。

ただ、翌日は、下山のバス道は雨で川の様な流れを走り、下山駅から南小谷行きの電車は欠航のため、代行バスの乗り換えの連続だった。



(天狗原からの白馬岳)

急峻な谷間を流れる糸井川は、茶褐色の激流と化し、川幅一杯に飛沫を上げる様は、脅威であった。やっと、松本に着いたが、中央線は運休で、4時間の足止めとなつた。

夕方、5時過ぎ、特急も動き出し、なんとか、その日、遅く、家に着いたが、これも、想い出の一つになった。

## ハイキングの思い出

### ～われら仲間たち～ (1)



第6回：明神ヶ岳（平成11年5月22日）



第19回：武山（平成14年1月19日）



第34回：鹿島槍ヶ岳（平成15年10月17日）



第44回：万座・白根（平成16年8月22日）



第56回：蔵王高原（平成17年8月22日）



第61回：渋沢丘陵（平成18年1月21日）



第80回：志賀高原（平成19年8月25日）



第94回：八幡平高原（平成20年9月6日）